



阿部晴明

夢合延壽

東都書肆

夢合延壽家大成序

聖人小夢形一五攝の存部

より方はと心をも支身小人乃

戲語ありて取らるる既も漢古

異國本朝とも古人孔若

莫虚の美善悪乃西平 昭々

夢合延壽

何多し 何人 之も 海
 乃 軍 何 神 佛 靈 夢 孔 教 者
 何し 多ん 也 固く 故人の 習 評
 祥 亦 家 子 あり 且 昔 人 乃 調
 用 と 好 事 志 の 利

安永六丁酉歲仲秋

以 免 未 已 せ り 終 く

海	地震	神	矢	ふ
川	震	佛	取	ト
舟	雷	堂	取	心
船	雪	塔	野	心
筏	雨	墓	人	心
橋	大			
廿三	風	廿三	廿三	廿三
日		日	日	日

まの山 洞 穴 橋 石
六十一頁

新 宮 後 野 山 馬 園 虚 空
六十二頁

雲 霞 霧 虹 稲 妻
六十三頁

耕 畑 井 戸 家 畑 碁 碁 碁
六十四頁

勝負 道 具 雛 祭 檝 碁 碁
六十五頁

酒 宴 盃 托 所 青 曲 見 托
六十六頁

花 本 竹 菓 青 物
六十七頁

肴 鳥 獸 麩 刺
六十八頁

雑 の 部
六十九頁

髪 現 幻 乃 心 人
七十頁

あー きゆ 免 を け す ぞん
七十一頁

よー ゆめ を ま け る ぞん
七十二頁

おののり を ゆめ あ る ぞん
七十三頁

月一うらぐふうくまひあぐり一二年の土をえ
まぐ毎月くあつるうらぐひの事

①

乾の健き萬物資始るの意あり

はあふあつるけり男如とのふ一切の事おれをを

は合一あつるまえき後のちあ十分うら

あつる又中より下の人あたまりくわ

あつる史物をするも八九月と心ゆの事

もうちをふす人うらまうせうらみのつて十分

せんと我をふすうせとあつるよとまかえつて

まぬがりの十の夜八まんをえどと

あつるのまむらうのまふたうのまをす

まらんあそくまらる

まむらうまらるうらうらう

やまひるのまむらうまらる

うせいのまむらうのまふあつる

②

兌の喜の願うの卦も言あつて

あつるの意あり

はあふあつるけり男如とのふあつる

ちびりふらふらあひまをばらばらとめは命よりあらし
 りとせすのるの利らえまき中一日の世の世より
 ちんまをすのるかまうづり一切の世をまはるこふ利
 らえありこの一日の世の世をまはるええあるが
 不動をまんとせり

▲ 移るひのむきや 坊の後のまぶらうぶもするあ
 うせものまむのちふありまをへてらぬし
 ▲ まちんのかむらづきあり
 ▲ ちんひるふみ十み七八あやうり

▲ 移るのああり ▲ 生えん命あつはしむぐり



離の秋葉風子飄るの意あり

は卦ふあうらとまの男女ともちドめあうりみする
 一切は命よりまじ中ごろみするのすとしさぬさび
 ありさをあうら一代よの卦みればらうははけく
 あらうのあはれをえんドさうりあ一日の世の世をまはる
 べつまを利ひまきハツより番まつまを利ひてうら
 りすべて一切の世の世の一日の世の世をまはるむし
 夜をまのまてり

ずきんをきくもはげすむるも一歩の歩みもあつた
 ▲大風がとてあつたをいふとあらはらむまじき
 あくはらふはらふはらふはらふはらふはらふはらふ
 おききひくするはら一切のまじきはらひは合
 うーこころいびきまはらひのひらうーあらー
 ちとすまじきするまじきうーまじきまのびまはらひ
 へんくのうあやうあやうあやうあやうあやうあやう
 けりみそうーふげんがさうあまんーうー
 ▲大風のあつたをいふとあらはらむまじき

家ゆきをきくもはげすむるも一歩の歩みもあつた
 みとあつたをー一切のまじきまはらひのひらうーあらー
 うことんまじきうのうとあつたまじきまはらひのひらうーあらー
 へんくのあつたをいふとあらはらむまじき
 うーあらーあらーあらーあらーあらーあらーあらー
 ▲うみ川里ふくまじきまはらひのひらうーあらー
 のぢみまじきまはらひのひらうーあらーあらーあらー
 うーあらーあらーあらーあらーあらーあらーあらー
 ーくまじきまはらひのひらうーあらーあらーあらー

▲うみ川のみをまわしてはらりしる海からあふす
うみの中よりせりしるあをほりてみせし

▲海川のみをまわらうとらうくはしくして

しよまればゆるもちようあひ社念う一日はてす

公人の買う人のちよあふだんくとせうしんす

るあをそらう人船のちびりしよまらばはく

社念うあやうー多びす大いへままりあし

▲大氷あて川とあひしよまらばはく

のちをゆるりてするともひらあひらあてし

あひらあてし船中ちよまらばはく

あひらあてし船中ちよまらばはく

▲大川のみをまわしてはらりしる海からあふす

ちよまらばはく

あひらあてし船中ちよまらばはく

▲あひらあてし船中ちよまらばはく

あひらあてし船中ちよまらばはく

あひらあてし船中ちよまらばはく

いぬ食方

二四

高たふやとめぐじらある人からうまきうまきうまき
 ぐくあともみは合たふふふふふふふふふふふふふふふふ
 幾ふのるとさるう又いほほほほほほほほほほほほほほほほ
 せんとせく一切の事あひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 すがていそぐさふお利うんきうんきうんきうんきうんきうんき
 せんしとせくことまあぐふするあひあひあひあひあひあひあひ
 へんがしんのはいあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 とたひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 ころとあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 ころのあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

へんがしんのはいあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 とたひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 ころとあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 ころのあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 へんがしんのはいあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 とたひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 ころとあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
 ころのあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

ぐんせきいふは洲のぢるとあるひの大木のことか入ふ
 とある又そまよふとまはくしとまひくとまふとまひと
 男女とのふさうのうちふさうせんじやくのま
 さ一五歩とくちくはくしとまはくしとまはくしと
 ちてちくびやうあるんふちひびきくのみおちた
 きたる洲のうまのまはくしとまはくしとまはくしと
 せんトくしとくしとくしとくしとくしとくしとくしと

▲石のう入おぢうせんと産するところのう又ハ八重

十文トふり〜〜〜〜〜^{いぬ合才月}

洲の万たんのまふしとまはくしとまはくしとまはくしと
 うとあまのまふしとまはくしとまはくしとまはくしと
 おちたひくとすまのまふしとまはくしとまはくしと
 人あれたまふしとまはくしとまはくしとまはくしと
 しんがうせふしとまはくしとまはくしとまはくしと
 くろふとまふしとまはくしとまはくしとまはくしと
 ちるちのまふしとまはくしとまはくしとまはくしと
 ▲ちるちのまふしとまはくしとまはくしとまはくしと
 ちるちのまふしとまはくしとまはくしとまはくしと

出合を人々うきんせいのまゝあて能はらひあり
 ぐやくと仕合う一あらう一切のりのこふも
 ひきくるみ候すべし一うきんせいのまゝあて
 うき大らく無文先候まらまらう一こらひて
 てもう一一のそのともがらん候しむべし一

▲一となく候くの云地と云るう又のあて候遠
 國へゆくといふる人の親子と付すて一
 る中あるひその人のちうとあるをいふふ
 せうとせうとあるをいふふとせうとせうと
 せうとせうとあるをいふふとせうとせうと

▲大のあひやせる中ふあ入一四もて一ずあむら
 くと一と一とあむらあむらあむらあむら
 一人のあひやせる中ふあ入一四もて一ずあむら
 をあむら一とあむらあむらあむらあむら
 あむらあむらあむらあむらあむらあむら
 づあむらあむらあむらあむらあむらあむら
 のあむらあむらあむらあむらあむらあむら
 とあむらあむらあむらあむらあむらあむら

いんげん

十六

▲大まかに分る此系は大本一冊あるところせよ一切の言
 我身一人よくせくろく入らず他人の助たすけかすく
 ありてりあざむ物ごとくろくあづかるとををさふ
 とまふす人おろくろくよろくこびるまき又いあふ
 のおるとまの財はらろくおせえんあづかつかるべきの
 よろくあづかむあづかむまきはるお向ひくらくせろ
 としむぞろいんよふけんかろくぞろいんよとよ
 ▲らくたあふぞろいんとてろくろく又のあふのあふ
 ろくろくくとあてとあてとあてとあてとあてとあてとあ

ハ男女ともよくろくろくたへず一切のまきろくろく
 ぞろいんよあ合くすろく大目八せんぞろいんよすれ
 ばだんくは合まきろくのちろくろく
 ▲ろくろくあろくろくとまの又のころくろくとあてと
 ろくろくあろくろく男女ともあろくろくあろくろくぞろいんよ
 ろくのろくあろくろくあろくろくあろくろくあろくろく
 まきろくあろくろくあろくろくあろくろくあろくろく
 のあろくろくあろくろくあろくろくあろくろくあろくろく
 ぞろいんよあろくろくあろくろくあろくろくあろくろく

社会大綱

▲馬を賣り又ハ霧のまのちるをいせふふふ
 一切のしつをいせす令一女のびおあるとき人
 のそねをねみあうりくよとあいのよふてび
 あをこけくわうこう人のまんよううしび
 せうけのるまをさう一夫まんを殺いのせくし
 ▲ゆくのうすみさるといせふる財をえんドしを
 つぐまら一一切のしつえ合をさくしとさる
 考ぐらふす財をさくしとくお利をえをさるあつま
 りにんまあらお利をえしつとくしつをさる

▲蛇をいせふふる財を一切のしつをさるすく死ハ
 大きお利をえしあを賣のいせくうをさるし
 のの三日の男むさうしとむさうぶらまをさる
 のうま一きうびゆう人のまをさるうぢとす
 だ一大病人のあやう一夫をさるさる一
 ▲猪をいせふふる財をいせふるさうえをさる
 きつあを利とくをさるとさる一こけをさるえ
 りようくとこのい浪人のま財あをさる一やうん
 ねをいせふる財をさるとさるさる一女

人々をいせしめしむる也するも(百姓)をいせしめしむる也

▲四よりいせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

社会よりいせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

人の多くいせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

▲四よりいせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

▲一切のいせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也いせしめしむる也いせしめしむる也

いせしめしむる也

三五

ともうとゆへしとす人など社会より又百しやう
 のちうやらうふゆえんきう万えんをあたると
 財の万社会より別しと子のちんえんくしんを
 さうくしゆいばふそむしあひるをさうくしゆ
 ありしけしとてし

▲葉山より引板とゆえんも厚る財のきつじのちの
 氏とがとぐきんえんのふうくしと然んたりとび
 あぶぐく子孫おきあめの風ふあつとびるびく
 せうしゆいばふそむしあひるをさうくしゆ

うし子孫をんとゆうしとせぬん長久せりつとも
 せもんとのふけいせんとさう財のきつじのちのち
 じらぶしあつとすしせんあうしあぐく春は夏秋
 九月月のゆえんちのきもすしけと秋の宮中ふ
 らるゆえんゆい氏とのふたきふ社会よりしんぐ
 のちあふ孫がひしゆりゆへしとゆめすふ福徳
 らるゆえんゆいひまうしとゆえんゆえんと十月のゆ
 めのゆうくしゆしゆけとゆえんゆえんゆえんゆ
 おふそくするゆえんゆえん又とうとくの用ふす

山姥合大付

三三三

ぞー^{いせ}おれのえんよつすまのあをほーみん
とーんぐの人のえんをのぞん

▲内お井戸あるところ^お井戸のあましん^{いせ}出世乃
いせのあをまけとちつ^{いせ}あま水くむとちつ
のそめとーのちりおひろきおーとちつ
あを又女人のあすドよりよんせんあをく
しん^{いせ}おらとちつと出世するちついせ
年神とすう^{いせ}

▲井戸へ入るとみるや又かちり^{いせ}お守ると見
せがめのごとふせんー^{いせ}あやー^{いせ}あやー^{いせ}
うふいせんすくぐん^{いせ}水神のとちつあを水あん
いせー井戸^{いせ}お守るとくー

▲井の水とくくとく^{いせ}あがるとあまふん^{いせ}
家とみこくちつ^{いせ}のちみするのまふ^{いせ}
は合たまふとー^{いせ}男のよん^{いせ}は女とむく^{いせ}
あを女のあんぐん^{いせ}あまふん^{いせ}あまふん^{いせ}
ぞー男女とのあまふん^{いせ}あまふん^{いせ}
あまふん^{いせ}あまふん^{いせ}あまふん^{いせ}

▲井戸の中へさぬくのめとよをあたすとん
 るう又ハちをあくし落入とらあるとんるとん
 ありあるうらあるはずとんくあるめのおとんく
 中うおあをるるのをみおまらせやうけして女
 人のあらと紙大切ありとあひらたるとんて
 うくあうやうぬ中よく口にああるとん
 想くしてちうしき中のえんききとんあはるる
 おををんとトけしみて

▲あやぬきの井戸ありとんあはるる又ハ
 のうち井戸ありとんあはるるあはるる
 あはるるあはるるとんあはるるあはるる
 あはるるあはるるとんあはるるあはるる
 のびとよくとのたうもあはるるあはるる
 くうくは後折うるるあはるるとんあはるる
 まうくはあはるるあはるるとんあはるる
 くはあはるるとんあはるるとん

▲井戸の氷さきくあはるるあはるるとんあはるるとん

いぬ合大月

▲世遠征にすると思ふに、是れ世の一切の事、
 世の事、おおよそ、をくをん、すく、とある、
 然る、
 家た、
 う、
 この、
 の、

▲世遠征にすると思ふに、是れ世の一切の事、
 世の事、おおよそ、をくをん、すく、とある、
 然る、
 家た、
 う、
 この、
 の、

さまひくしうりあひの女へくはせしん
 中より最上とてしりるふらふらさしあひ
 うらまひ人の家督はひくくあはれんあひ
 しん中よびせくひひひの女へ男女とのふ
 らろあちほきようひひひひひとあるとある
 うら神分するうりへくし

▲音^{おと}場^{ばた}成^{なり}たるとあると又の出^いあ^け成^{なり}世^よ續^つく
 してるといふるよえりあへ一^い家^か親^{おや}さんへく其
 うらへくはひのむらひのむらひへくはひへ

養^{やしやう}子の書^{かき}の出入^{しゆ}たん照^{しょう}成^{なり}のとあへくはひへ
 べくしと任命^{にんめい}へ一^い重^{ちゆう}徳^{とく}太^{たい}あ^あ成^{なり}するべし

▲いん^{いん}あ^あぶ^ぶく^くふ^ふす^すま^またる^{たる}養^{やしやう}子^このあ^あへくはひへ
 圓^{えん}あ^あく^くち^ちのあ^あへくはひへ一^いあ^あへくはひへ
 あ^あへくはひへくはひへくはひへくはひへ
 う^うら^らへくはひへくはひへくはひへくはひへ
 け^けい^いく^くふ^ふら^らへくはひへくはひへくはひへ
 こ^このあ^あへくはひへくはひへくはひへくはひへ
 ま^まへくはひへくはひへくはひへくはひへ

よむやうにぞんとて

▲[○] 居てこそ[○] 幾と[○] なるや又いあし

うらとこそ[○] まるほ[○] あくろうた人ぞとさる人

しと[○] すごく今[○] まをのりぞんとあし

あし[○] しては[○] 人と[○] 華[○] 久し[○] 死[○] ぬ[○] び[○] る[○] ぞ

まひ[○] かくと[○] あ[○] の[○] ひ[○] 引[○] け[○] を[○] わ[○] か[○] せ[○] ぬ[○] ぞ

見[○] じ[○] せ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ

ま[○] り[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ

よ[○] り[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ

えんト[○] 女[○] 三[○] 夜[○] 中[○] づ[○] ら[○] ぬ[○] ぞ

▲[○] 幾と[○] なるや又いあし

ひと[○] 金[○] 浪[○] 夜[○] あ[○] ぬ[○] ぞ

お[○] 多[○] く[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ

元[○] 小[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ

う[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ

大[○] 小[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ

▲[○] 幾と[○] なるや又いあし

く[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ[○] ぬ[○] ぞ

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

うきうきとあそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーや
うきうきとあそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーや

▲海に貝くらゝくらゐのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき
舟二のあしあしやうまあやうまのうきうきとあそびたふはしーや
うきうきとあそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーや
うきうきとあそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーや
うきうきとあそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーや

▲あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき
あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき
あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき
あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき
あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき

▲あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき
あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき
あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき
あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき
あそびたふはしーやのうきうきとあそびたふはしーやのうきうき

▲あふが願紙の〜とらえよん事だ男女とのよまじろ
 ぐと大きふ社会〜も〜〜ふ〜も〜
 ひ〜ひ〜も〜〜あ〜〜ひ〜ひ〜る願
 と〜と〜し〜と〜ト〜ハ〜は〜は〜は〜は〜は〜
 だ〜

▲ひまふりよの〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜
 社会〜〜〜〜〜〜の〜〜〜〜〜と
 め〜〜〜〜〜社会する事あやま〜〜〜中
 あ〜あ〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜
 ら〜〜〜〜

▲のちや強まるといふふららバ男ハ孫びのこみ
 るけふとあるだ〜又〜中〜中〜中〜
 と〜と〜〜〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 らの社会大き〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 ま〜〜〜〜
 ▲あひら解は〜の〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
 る〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 ある〜〜又〜と〜人〜〜の〜〜〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

いむ台名

いむ台名

さらぬ^{こころ}おののきん中よふ^ひと^びまうよび
 あやとあるな^いこのおれ^いは^いま^いの^いよ^いく
 愛する^あお^いと^いは^いな^いま^いの^いよ^いく
 酒^いを^いん^いま^いの^いよ^いく
 うち^いの^いよ^いく
 病^いを^いん^いま^いの^いよ^いく
 ひ^いか^いせ^いん^いま^いの^いよ^いく
 男女^いを^いん^いま^いの^いよ^いく
 木^い女^いと^いの^いよ^いく

どの^いお^いの^いよ^いく
 親^い子^い一^い家^いを^いん^いま^いの^いよ^いく
 う^いを^いん^いま^いの^いよ^いく
 の^いら^いお^いの^いよ^いく
 民^いの^い男^い女^いと^いの^いよ^いく
 然^いる^いま^いの^いよ^いく
 ち^いの^いよ^いく
 日^いを^いん^いま^いの^いよ^いく
 ち^いの^いよ^いく

いざなふ日

五

あてはくし〜と〜中へ備を具ふり〜と
 みそんどあひひ〜人〜らする〜あ〜
 けてあるぬあす〜又〜のあ〜
 まあ〜と〜みす〜
 るあやらぢ〜と〜

よき〜と〜
 人〜と〜
 らあ〜と〜
 ざい〜と〜

▲とびくあ〜と〜
 ると〜と〜
 と〜と〜

▲能見物〜と〜
 一あ〜と〜
 ぞ〜と〜
 らみ入〜と〜
 人〜と〜
 ▲芝居〜と〜

いぬ合本

三十一

海島^{うま}とてさくといふもよる舟^{ふね}の目^めの人の家
 ありしむくり又^{また}人ののうかたよのるあやこひを
 りうらう人のと人^{ひと}なりうたむひうけぬやうみ
 らずべー女人^にの夫^をのまふともむいことあせま
 うらむひさうけるあふべー女^をた後^ちかきんと
 よー想^{おも}とて男女^にありやとるをうを興^{おこ}う
 ひひもあつとよとる舟^{ふね}の目^めにしてぞん
 びはしとぞーまうと人のそしをたうけ男女^に
 みるたむいなるはしとむい

▲せんせしむいとのうたかた又^{また}た見^みはかた
 とゆふも見るもむいころあはしうべた
 ころとたかうあむひひらうとるま
 大^{おほ}いふあひらふなむるあるぞーず
 ぞんはしむい神^{かみ}をまうと
 ▲所^{ところ}の名^なも回^{まわ}りあが免^{まぬ}あやとてゆふ
 とむいむい〜まふと〜あつるあ
 のうあひらう〜むいあはしとあはし
 よむいあはしとむい〜むいあはしとむい

るあやせゆりくは念と

▲^{こころ}枝のたもと身らう入のせ^{みたま}たふるとまふる^み女を
 のんちゆりけさこしーぬりちあふしーて
 ーゆりするゆりうらふちるちがひゆりすと
 花^{はな}たふるとまふるちゆりさふり利うしあを
 きりんゆりしるーとまふるなーありーなうが
 けくせをふりくーりー

▲^{こころ}門松^{かどまつ}たふるとまふるちゆりさふり利うしあを
 ーゆりするゆりうらふちるちがひゆりすと

ふりーとるは念とー^{いせ}民の男女とのふり

ゆりてんとくと家とみこり人縁がひのをみる
 うらふとまふるー^{いせ}徳外代^{とくがい}あふり

▲^{こころ}こころの^{こころ}たふるとまふるちゆりさふり利うしあを
 ふりてんとくと家とみこり人縁がひのをみる
 ふりてんとくと家とみこり人縁がひのをみる

▲^{こころ}ゆりくの^{ゆり}あふり^あの^の実^みうらむしとゆりさふり
 ば男女とのふりあふりゆりさふりゆりさふりゆりさふり
 りりゆりさふりゆりさふりゆりさふりゆりさふりゆりさふり
 するゆりさふりゆりさふりゆりさふりゆりさふりゆりさふり

のころ入とあるなぐ一太らくびーやのしを成家まろ
きくし

▲極きま本ま分ぶんののとめ造ぞうでとてるとるう又のあ
敬けい成せい入いるといれふうるといれふ一切いっけつの縁えんがひら
りてひでらうーとてんーとてんてんがふよするまじきの
るうくらのひす人ひとをたかまへんーとてんーとてん
とーとてんー

▲あこの措とくらうめれ知ち其まののしはあかひをいひ
ゆいともあひ入いひらうゆいうけいあかひをいひらう

るあかひをいひらうゆいうけいあかひをいひらう
ふふとくするゆあるーはひーとてんー又とてんー
まんがあかひをいひらうゆいうけいあかひをいひらう
とてんがひらうゆいうけいあかひをいひらうゆい
▲松竹しょうちくのあかひをいひらうゆいうけいあかひをいひらう
るあかひをいひらうゆいうけいあかひをいひらう
はす人ひとをいひらうゆいうけいあかひをいひらう
▲立た本ほんのあかひをいひらうゆいうけいあかひをいひらう
とてんがひらうゆいうけいあかひをいひらうゆい

いせ合本序

五十四

▲¹⁵ 舞のせつ⁵⁴¹はるかにあつては男女ともまじりのふは合
 大きふと一門の人のふはまじりは出世するを
 こけてなまらふ人のめまひふあふかくと
 ましんをてすふいするやどいふはみ物つちは
 ▲¹⁶ 舞のせつはなまらふが男女とのふは合
 又舞のあつてはるかにあつては男女ともまじりのふは合
 一切のふはるかにあつては男女ともまじりのふは合
 舞のせつはなまらふが男女とのふは合
 又舞のあつてはるかにあつては男女ともまじりのふは合
 一切のふはるかにあつては男女ともまじりのふは合
 舞のせつはなまらふが男女とのふは合

▲舞の中まじりはあつては男女ともまじりのふは合
 のせつはるかにあつては男女ともまじりのふは合
 中ふふらとびるあつては男女ともまじりのふは合
 いることごとく目をあつては男女ともまじりのふは合
 るもいふまにすべし
 ▲舞のせつはなまらふが男女とのふは合
 めらるる不い舞まじりはあつては男女ともまじりのふは合
 てもは合す一家用又舞のあつては男女ともまじりのふは合
 あつては合す一家用又舞のあつては男女ともまじりのふは合

しんあか

二六

子と死トヤウ時トヤウをトヤウ死トヤウんトヤウぐトヤウんトヤウ万トヤウるトヤウんトヤウ成トヤウるトヤウすトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウは
らトヤウらトヤウふトヤウのトヤウのトヤウるトヤウんトヤウ成トヤウすトヤウんトヤウずトヤウらトヤウらトヤウとトヤウらトヤウんトヤウのトヤウのトヤウ
くトヤウのトヤウ男トヤウ女トヤウのトヤウあトヤウるトヤウのトヤウふトヤウよトヤウくトヤウ死トヤウすトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウは
てトヤウすトヤウんトヤウートヤウらトヤウらトヤウらトヤウらトヤウみトヤウふトヤウすトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウはトヤウすトヤウんトヤウとトヤウけトヤウびトヤウのトヤウ縁
あトヤウらトヤウてトヤウ中トヤウぶトヤウあトヤウるトヤウとトヤウきトヤウるトヤウんトヤウートヤウ

▲のトヤウらトヤウくトヤウのトヤウもトヤウ死トヤウすトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウはトヤウすトヤウんトヤウとトヤウけトヤウびトヤウのトヤウ縁
孫トヤウがトヤウひトヤウらトヤウらトヤウふトヤウすトヤウんトヤウとトヤウきトヤウるトヤウんトヤウートヤウ又トヤウのトヤウ死トヤウすトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウはトヤウすトヤウんトヤウ
のトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウはトヤウすトヤウんトヤウとトヤウけトヤウびトヤウのトヤウ縁
あトヤウらトヤウてトヤウ中トヤウぶトヤウあトヤウるトヤウとトヤウきトヤウるトヤウんトヤウートヤウ

たトヤウらトヤウもトヤウ死トヤウすトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウはトヤウすトヤウんトヤウとトヤウけトヤウびトヤウのトヤウ縁
あトヤウらトヤウてトヤウ中トヤウぶトヤウあトヤウるトヤウとトヤウきトヤウるトヤウんトヤウートヤウ

▲山トヤウをトヤウふトヤウらトヤウらトヤウふトヤウすトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウはトヤウすトヤウんトヤウとトヤウけトヤウびトヤウのトヤウ縁
あトヤウらトヤウてトヤウ中トヤウぶトヤウあトヤウるトヤウとトヤウきトヤウるトヤウんトヤウートヤウ又トヤウのトヤウ死トヤウすトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウはトヤウすトヤウんトヤウ
のトヤウ時トヤウはトヤウ念トヤウはトヤウすトヤウんトヤウとトヤウけトヤウびトヤウのトヤウ縁
あトヤウらトヤウてトヤウ中トヤウぶトヤウあトヤウるトヤウとトヤウきトヤウるトヤウんトヤウートヤウ

しんせき

いんげんぐよーあうー女人のいんげん利らんすは
そのやう一切のしーいんげんもすまらぬや

▲なびをる中なびをる中のてのいんげんふんをぶたひていんげんを
いのちをいんげんをさうちいんげんすうやうー

▲一切の着くひあふすいんげんふんをぶたひていんげんを
きふはなすーいんげんをさうちいんげんすうやうー
いんげんあふさうーいんげんをさうちいんげんすうやうー

▲いんげんのうちいんげんをさうちいんげんすうやうー
いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうー

▲いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうー

▲いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうー

▲いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうーいんげんをさうち
いんげんをさうちいんげんすうやうー

中の目よりみたりしを親善公しんとす
 ▲兼たこころぬいれよまじぶ男女とのふたまたまは
 合よりこころいれよまじぶの心なるはなりのこころ
 りゆらゆらとあるべし大く天候さうやとす
 ▲雷のあつやとる候もろり又の法し中うぶるその
 ろうあつひよこころる合をぬめうけ利うんをさす
 とし先ふまじぶさうきやうやむんぬら
 せらう又からろふあつひぬせんしつをさす
 ぶんけしとるんぬせんしつとす

▲何ふよこころぬいれ先ぬるこころあつとあつひその
 け先ぬるふたをり相修するとる候へ一切らうのく
 めんはむけい變るる中らひあつひぬぬぬぬぬぬぬ
 ト改め盡してしつとあつひのあつひぬぬ
 何思とくろふふたをりこころぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬとくろふぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ▲あつひす傳のこころぬいれ先ふまじぶ事申こころぬ
 のうちあつひぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

いふ合本

五七

みては紫あはしむすんくびはくみそ
 又賣買するところ母の一切の事おぼして
 まことの養すくろいをんどもふりまの
 ぶ一とらう人くろいあう一は合のう
 ▲様をたのていぬい免ふる母をん一うた
 りかすてあはくふするろくろくあす
 糸ぐひのせみゆも今すまのろくろく
 あくめくは速いんがーびひろくろく
 とたか一切の事利うん中すくろく

▲命分す免すたのていぬい免ふる母をん一うた
 るろくくとま身出世のろくろくびひろくろく
 さあろくろくあろくろくあろくろく
 びまろくろくあろくろくあろくろく
 ひろくろくあろくろくあろくろく
 ▲万歳の舞ていぬい免ふる母をん一うた
 ふうろくろくあろくろくあろくろく
 孝のろくろくあろくろくあろくろく
 うろくろくあろくろくあろくろく

（巻）

（巻）

かるすくやーずいぐんはー大真天狐たうせのそー
 ▲食ち摘て瓜くわのそくといんふんふんが傍たがのそふ年としの
 ぐんくまろーんしゆり世よが傍たが瓜くわのそふすん
 く世よのよいひんひんの社会かいーこひて百ひゃくやうん
 ぜんをよーく人ひとよを地ち種くさね多くあるゆーこころ
 年とし男女なんにょとのふ目めすち月つきすち瓜くわーとー

▲福ふく引ひ松しょうするといんふんふんが男おとこ女めとのふ社会
 ーこひて茶ちやたつ瓜くわころう又また氷こおりのそ瓜くわーあて
 るとるけいそふ年としすち人ひと瓜くわひーち一切いっけつのそす

むとくぐく判はんうん瓜くわあるあ中ちゆうちゆうー福ふく引ひ松しょうのそ金かね銀ぎん
 瓜くわひたあていんふんふんのそ瓜くわーこころのそ瓜くわふ
 ろひたがらありこころちぢひまー瓜くわひひんをば
 ▲三さん嘉かもろ瓜くわひんふんふんの母ははの孫まごがひのそみま
 ろうあふんふんも影かげふあひひんひんのそ瓜くわひひんひんと
 ちゆう瓜くわーちゆうーあつひんひんのそ瓜くわひひんひんと
 ちんトふら瓜くわら瓜くわひひんひんのそ瓜くわひひんひんと
 ちゆうあつひんひんひひんひんのそ瓜くわひひんひんと
 ちん瓜くわひひんひんのそ瓜くわひひんひんと

くは命す

○夢現幻之傳

●うく縁のなすのりくくのみさきまじりけりしやまは
たええ
 ●おふ縁のなすくくくくくくくくくくくくくくく
 ●さかきすのりちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 ●さかきすのりちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 ●さかきすのりちんちんちんちんちんちんちんちんちん
 ●さかきすのりちんちんちんちんちんちんちんちんちん

○夢女なるの傳

●あーれいんを女とくくくけす舞
 司りいんを女とくくのあーれいとあすう
 さうもをきくあけのそ
 あーれいんを女とくくとあけのそ
 とむだすそのきいんを女とくくとあけのそ
 おあーれいんを女とくくとあけのそ
 さうぐを女とくくとあけのそ
 いとあけのそとあけのそ

夢女

七三

その物言ひすまふまがすぢり。いんぎんもの
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん

○吉夢と祭らめり傳いんぎん

●いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
一切いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん

いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん

○いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん

いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん

いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん
いんぎんいんぎんいんぎんいんぎんいんぎん

おのれをいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり

我があはれなるものなり

かたじけなくいふはまじき事なり

おのれのいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり

かたじけなくいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり

○ 縁しむるはまじき事なり

かたじけなくいふはまじき事なり

かたじけなくいふはまじき事なり

かたじけなくいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり
かたじけなくいふはまじき事なり

く縁りやうる海すし〜あや〜い〜い〜い〜い
 いえさめく〜のちだ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 あぢ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 きら〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ

●いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 ひ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 ら〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ

●いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ

あ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 す〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 あ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ

●いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 い〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ
 いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ〜いあ

いぬ集

見徳夢占

いんげんのくちかみハワフツクまじりしとき
のこせうきすとあくの①②③④のちみり合
一切のいんげんのくちかみハワフツクまじりしとき

富士	三音	九十一
鷹	二音	四十八
茄子	三音	十一百
鶴	一音	一千

龜	一音	一万
門松	二音	十八
竹子	二音	二十四
日輪	三音	三十三

月輪	六音	六十六
星	二音	二十八
白髮翁	十音	十一百
米俵	八音	八十八

宝珠	百音	百八
大黒	十一音	十七
龍	五音	五十五
蛇	五音	五十五

百足	百音	百
獅子頭	六音	六十六
白馬	七音	七十三
牛	四音	四十七

一匹獸	四音	四百
諸鳥	二音	二百
船	九音	九百
鯉	三音	三十三

鯛	二音	四十三
一匹魚	三音	三十七
熨斗計	五音	八十五
泉臺	二音	二百

扇	十二音	十二
箱扇	四音	四十四
木實	四音	四十二
琴	十音	十三

尻目繩	七音	七十三
破魔弓	八音	八十五
鏡鉞	四音	四十八
銚子	一音	百

将基 八四 百一	嶋臺 九千 九百	子産 七二 百一	雞 十二 百	七種 九千 四百	宝船 二九 百	饅花 二六 百	大根 五五	髮置 二九	雛祭 二五
双六 六六 百	秋白 五三 百	初午 十千 二百	酒盛 二六 百	羽子板 八五 百	福引 一四 百	節分 二六 百	掛鞆 四六 百	餅つき 二五 百	五月 雛 八千 九百
神前 鏡 四六 百	七色 の 餅 四二 百	柏餅 二八 百	男元服 六千 四百	神糸 二九 百	三番 豊 五五 百	万歳 七三 百	縁起 の 餅 三三 百	棟上 四四 百	七夕 の 祭 百
菊之園 八七 百	基盤 六七 百	水引 六六	女元服 一四 百	花表 八七 百	春駒 九五 百	喰摘 九三 百	煤帚 四四 百	田植 五五 百	九月 の 雛 祭 八十一

八十八

三十一

徳をあらふすはあつ
かかのごとくすると此の夏あつ中あつもあつまあつまあつふあつ
徳

夢合延壽衣大成終

小

